

# 川中だいいじさん

(中学生・ジャーナリスト)

## 「議論しない空気」に活を入れたい!

川中だいいじさんは現在中学二年生。深く、鋭く社会状況を見つめ、民主主義のあるべき姿を追い求め、ジャーナリズム活動を展開している。昨年三月には岸田文雄首相に原発政策の是非を取材したいと決意し『日本中学生新聞』を創刊した。(聞き手は榎田秀樹さん)

### 「学校で政治の話はするな」

【岸田首相が原発再稼働を考えているという。しかも世界に先駆けて60年超の運転に挑むそうだ。2011年の(原発事故の)反省は政府官僚から消えたのだろうか。専門家の言うことが正しければ、なぜ原発事故は起きたのだろうか? 唯一の戦争被爆国、そして原発事故被曝国として脱原発を訴えるべきではないか?】

【2021年10月に閣議決定された『エネルギー基本計画』を調べてみた。(そこには)「福島第一原発事故

の経験、反省と教訓を肝に銘じて取り組むことがエネルギー政策の原点」「再生可能エネルギーの拡大を図る中で、可能な限り原発依存度を低減する」と明記されるながらも、「2030年に向けた政策対応ポイント(原子力)」では「世界で最も厳しい規制基準に適合すると認められた場合は、原発再稼働を進める」と真逆のことが書かれている】

【2023年5月に成立した『GX脱炭素電源法』では世界に先駆けて60年超の原発運転を可能にした】

いずれも『日本中学生新聞』からの引用。恥ずかし

ながら、筆者も初めて目にする事実があった。新聞とほぼ同時に始めたインターネットのX(旧ツイッター)でも情報発信をし、フォロワーはすでに約三万人(筆者Xの約五倍)。川中さん突き動かす原動力は何か。

——大阪万博やIRカジノなどの社会問題に関心を持ち、選挙のたびに候補者にアポなし取材を行い、中学生として学校内での民主主義にも目を向けています。政治や民主主義に関心をもったきっかけを教えてください。

四年前、小学校四年生のとき、夕食時に両親が「大阪維新の会」が進める大阪都構想について話し合っていました。僕の住んでいる大阪市がなくなって四つの特別区になるって、どういうメリットとデメリットがあるのかを知りたいと思ったんです。当時は携帯電話もパソコンももっていませんでした。父のスマホを借りてYouTubeを見たり、演説を聴きに行ったりして情報を集めました。

——何かわかりました?

財政はどうなってしまうのか? 社会福祉が削られてしまうのか? などの疑問を覚えたんです。そこで

思ったのは、僕たちは学校でそういう話をしていないということでした。学校の休み時間に、友だちに都構想のことを知っているかを尋ね、知っているなら賛成か反対か、その理由は何かを聞いていたんです。すると都構想という名前は知っているけど内容は詳しくないという子が多く、友人から内容を教えてほしいと言われたので説明していると、それを聞いていた先生から「学校で政治の話はするな」と叱られました。「わかりました」と言ったものの、腑に落ちなかったので反論しようと決めました。

——どういう反論を?

生徒に発言の自由がないのを調べるうちに、国連の「子どもの権利条約」第十二条に自由に意見が言える「意見表明権」があると知りました。そこで先生にそういう権利がありますと説明したら、先生はそれに特に答えるわけではなく、議論にもなりませんでした。

——先生が権利条約を知らなかったのかもしれないね。

そうかもしれません。僕はそれからも休み時間に友だちと政治の話をやめました。すると先生から母に電話がきて、「今度政治の話したら校長室に行